

### 変色しにくい畳表の貯蔵法

畳表を長期にわたり貯蔵する場合は、原草を貯蔵する黒のビニール袋に畳表を入れ、掃除機で中の空気を抜き取り密封状態で暗室(北側)に保管する。なお、保管場所が温度 20 湿度 65 % に保たれれば更に長期貯蔵が可能である。

農業研究センター い業研究所 加工部(担当者：田中 伸昭)

### 研究のねらい

畳表は通常出荷単位が整うと市場に出荷される。この間は約 2 週間であり、畳表の色調が大きく損なわれることはない。しかし、「ひのみどり」のブランド品「ひのさらさ」級になると、いつでも市場に受け入れられるものではなく、需要期までの長期保管が必要となってくる。

また、他の畳表においても計画的な保管出荷は市場価格の安定に大きく貢献できることもあり、市場の評価に耐えうる畳表の長期的な貯蔵方法の開発が大きな課題となっている。

### 研究の成果

1. 畳表を常温の暗室(貯蔵庫)に無被覆のまま保管すると、畳表の色は大きく変化し、1 ヶ月後には肉眼でも変化したことが感知できるほどになる(図 1)。
2. 畳表をビニールで覆ったり、黒ビニール袋に入れ中の空気を掃除機で抜きとり貯蔵することで、色の変化を感知するレベルまで更に 1 ヶ月延ばすことが可能である(図 1)。
3. 「ひのみどり」の貯蔵を常温暗室と温度と湿度がコントロールされた暗室(以下「恒温」)で比べると、無被覆の場合は常温も恒温も変わらないが、シート被覆と黒ビニール袋の真空処理は明らかに恒温の色変化が小さく、恒温の暗室効果が確認できる(図 2)。  
例えば恒温暗室の黒ビニール袋 + 真空処理を肉眼で感知しえない範囲(ライン 1)でみると、4 ヶ月間の貯蔵が可能とみられる。
4. シート被覆と黒ビニール袋の真空処理を比較すると、品種による差はなく、恒温暗室の効果が常温暗室より高いことが確認される(図 3)。

以上のことから、畳表を長期に貯蔵するには、畳表を黒ビニールに入れ掃除機でビニールの空気を抜き取り、密封状態のまま恒温恒湿(20、65%)の暗室に保管することが望ましい。このことで概ね 4 ヶ月間は畳表の退色(色落ち)を抑えることが可能である。

恒温恒湿の施設がない場合でも、常温の暗室(貯蔵庫)に密封状態で保管することで、2 ヶ月間は保持することができる。

### 普及上の留意点

1. 暗い常温の部屋(貯蔵庫)が南側の場合は、太陽光の輻射熱の影響を受け色の変化が早くなる可能性が高い。(原草の貯蔵法で実証済み)
2. 掃除機による黒ビニール内の空気の抜き取りは、家庭用の掃除機で可能である。
3. 途中の空気漏れがないよう、黒ビニールの選定と開口部の密閉(折り曲げてひもできつく縛る)などの処置が必要である。

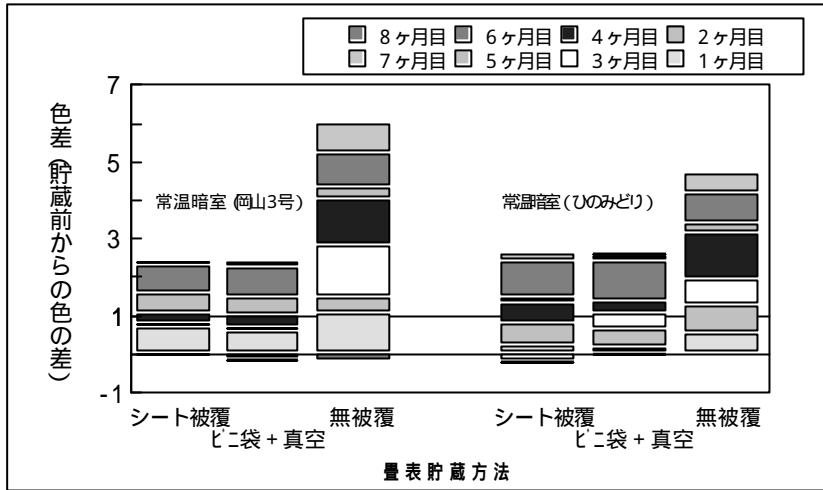


図1 常温暗室における黒ビニール被覆及び真空処理の効果  
 注) 1. 色差は貯蔵前からの色の変化を差で表したもの  
 2. グラフのマイナスの値は色の測定による測定位置の部分的誤差によるもの  
 3. 色差「1」のラインは肉眼で感知し得ないほどのわずかな色の变化の中心値  
 4. 貯蔵期間は4月23日～12月16日まで実施

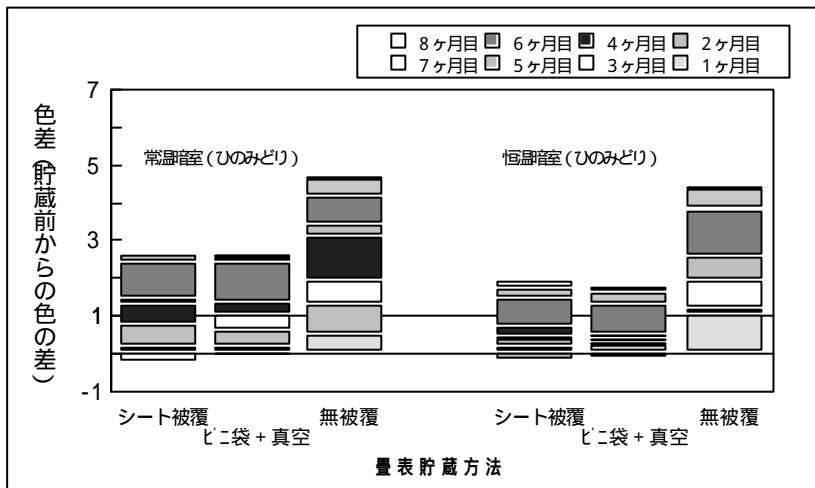


図2 常温暗室と恒温暗室貯蔵の効果

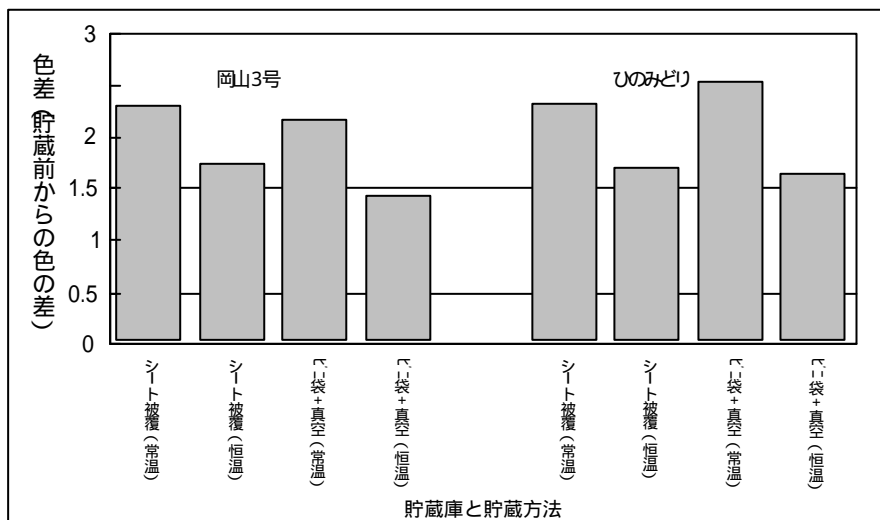


図3 8ヶ月間貯蔵後の被覆シートと真空処理の恒温暗室効果  
 注) 色差0.5～1.0までは肉眼感知しにくいわずかな変化